

南郷村立鬼神野小学校の学力向上への取組

1 学校の概要

本校は南郷村の西部に位置し、村の中心部から約5キロほど山間に入った全校児童30名の複式学級のある2級へき地校である。戸数は159戸あり全員がPTA会員である。(正会員24戸、準会員135戸)。学校創立は明治8年と歴史があり、学校・公民館等を中心に地域一体となった学社融合の教育が脈々と息づき、昔の良さの残る学校である。

歴史ある学校のためPTAや地域の連帯感が強く活発な活動が展開されている。地域や保護者の学校教育への関心が高く期待も大きい。

学校名	南郷村立鬼神野小学校						級 地	2										
所在地	東白村郡南郷村鬼神野2207番地						電話番号	0982 - 59 - 0082										
職員構成	県費負担教職員						市町村職員											
	校長	教頭	教諭	養護教諭	事務職員	栄養職員	計	給食	他	計								
	男 1		2		1		4											
女		1	2	1			4	1	1	2								
児童生徒数	学年	1	2	3	4	5	6	特殊	計									
	学級	1	1	1		1			4									
	人数	6	4	3	8	4	5		30									
学校の経営方針 教育目標及び重点 努力目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童や地域の実態を踏まえ、本校の歴史と伝統を継承しながら、学校と家庭及び地域社会と連携・融合して、郷土を愛し、郷土に誇りをもった感性豊かな人間の育成に努めると共に、21世紀をたくましく生きる力をもった子どもを育てる教育活動「鬼神野ならではの教育（K I J I N Oレインボープラン）」を推進する。 ○ 「心身ともに健康で明るく、豊かな人間性を培い、意欲的に学習するねばり強い児童の育成」 ○ K I J I N Oレインボープラン <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">(1) 学力の向上に努めます(基礎学力の向上)</td> <td style="width: 50%;">(2) 健康づくりに努めます(基礎体力の向上と安全な生活の環境整備)</td> </tr> <tr> <td>(3) 豊かな心の育成に努めます(思いやりをもち助け合う子の育成)</td> <td>(4) 生徒指導の充実に努めます(基本的な生活習慣の育成)</td> </tr> <tr> <td>(5) 社会の変化に対応した教育に努めます(活力ある教育活動の取組)</td> <td>(6) 地域に開かれた学校づくりに努めます(学校・保護者・地域社会との連携・融合)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(7) 教職員の資質向上に努めます(プロの教育者としての自覚と自信の向上)</td> </tr> </table> 										(1) 学力の向上に努めます(基礎学力の向上)	(2) 健康づくりに努めます(基礎体力の向上と安全な生活の環境整備)	(3) 豊かな心の育成に努めます(思いやりをもち助け合う子の育成)	(4) 生徒指導の充実に努めます(基本的な生活習慣の育成)	(5) 社会の変化に対応した教育に努めます(活力ある教育活動の取組)	(6) 地域に開かれた学校づくりに努めます(学校・保護者・地域社会との連携・融合)	(7) 教職員の資質向上に努めます(プロの教育者としての自覚と自信の向上)	
(1) 学力の向上に努めます(基礎学力の向上)	(2) 健康づくりに努めます(基礎体力の向上と安全な生活の環境整備)																	
(3) 豊かな心の育成に努めます(思いやりをもち助け合う子の育成)	(4) 生徒指導の充実に努めます(基本的な生活習慣の育成)																	
(5) 社会の変化に対応した教育に努めます(活力ある教育活動の取組)	(6) 地域に開かれた学校づくりに努めます(学校・保護者・地域社会との連携・融合)																	
(7) 教職員の資質向上に努めます(プロの教育者としての自覚と自信の向上)																		
教育的課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育課程の取組の充実と特色ある学校づくり ○ 確かな学力の形成とコミュニケーション能力の育成 ○ 豊かな人間性の育成と学習環境の整備 																	
学校の研究主題	胸をはって「私を見てください」と言える児童の育成 ～話す力を高めることを通して～																	
特色ある学校づくりへの取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特色ある教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 弾力的な運営により、1週間を地域に開放する参観週間 ・ 地域ぐるみで参加する秋季大運動会 ・ 保護者、地域の方々の指導により全校生徒が参加する白太鼓踊り ・ 苗作りから行う稲作体験学習 ・ 全校生徒による敬老の日の敬老会訪問や祭りの後の清掃活動など、積極的なボランティア活動 ・ 国際交流員とのハングル交流会 ・ テレビ会議システムを活用した交流学習 																	
学力向上への取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読む、書く、計算、コミュニケーションを図るなど基本的な能力を定着させる工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導内容の厳選と個に応じた丁寧な指導 ・ 朝の時間の充実(読書・漢字・計算・表現活動など) ・ 繰り返し指導、家庭学習の充実 ・ 基礎学力調査、学力テストの分析と確実な事後指導 ・ 言語活動と表現力育成を通じたコミュニケーション能力の育成(主眼研との関連強化) ○ 問題解決的学習や体験学習の重視と少人数の利点を生かした教育 ○ 「知」「徳」「体」の到達目標による推進拠点校における取組の充実 																	

2 児童の実態

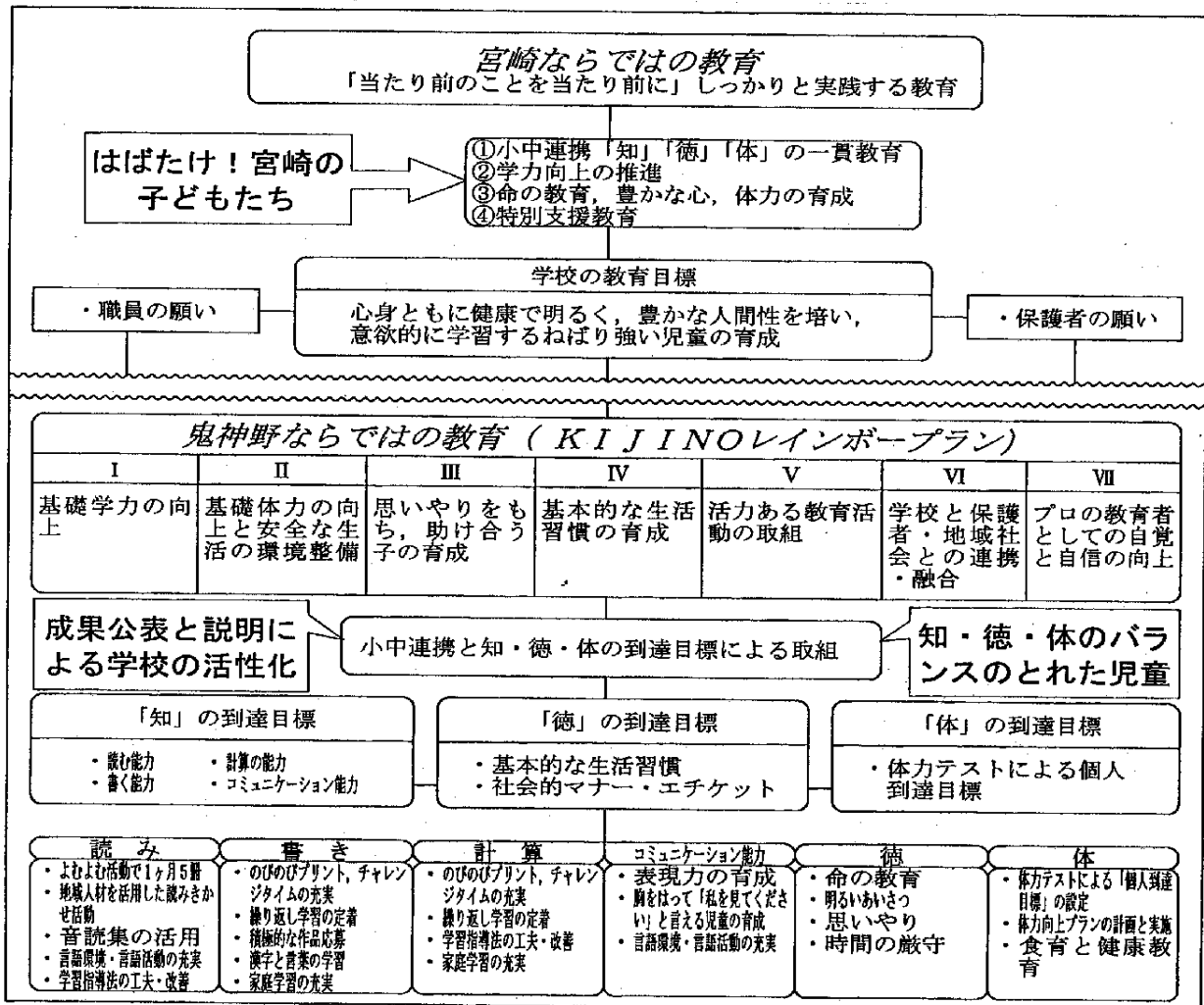
本校の児童は明るく素直である。特に少人数のため、学年での横のつながりは勿論のこと、縦のつながりも強い。一般的傾向として、協調性はあるが自主性や主体性が今一步で、人の意見に左右される面もうかがえる。

昨年度までの3年間は「基礎学力の向上」を掲げ、特に算数を中心に据えて研究を進めてきた。その結果、児童の算数に対する意識が向上し、徐々に学習内容が定着してきている。しかし、恥ずかしがって発表しなかったり、答えが分かっているでも自分の考えた方法がうまく説明できなかったりするなど、話し合いが深まらないという課題が出てきている。そのため、本年度からは、表現力やコミュニケーション能力の育成を図りながら、児童一人一人の学力向上を目指している。

3 学力向上に向けた経営方針

学力向上に向けた取組については、学校の概要にある「鬼神野ならではの教育（KIJINOレインボープラン）」をもとに、「知」「徳」「体」の到達目標による推進拠点校における取組と連携しながら、「読む、書く、計算、コミュニケーション」を図るなど基本的な能力を定着させる工夫を行いながら推進している。

【 学力向上に向けた「知」・「徳」・「体」の到達目標による取組の全体構想 】



4 教育課程内外の取組

(1) 昨年度までの3年間の取組

基礎学力の定着を中心に据え、研究主題を「できる・分かる喜びを味わうことのできる算数科学習指導の研究」とし、副題を「基礎・基本を確実に身に付けさせる学習指導の工夫」と定め、以下の研究内容を進めてきた。

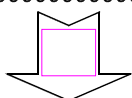
- | | |
|-----------------------|-------------------|
| ○ 実態調査・意識調査による児童の実態分析 | ○ 基礎・基本の一覧表の作成 |
| ○ 評価規準・基準の作成 | ○ 学習指導の工夫 |
| ○ 評価の在り方 | ○ 個に応じた練習問題の工夫 |
| ○ チャレンジタイムを活用した計算力の向上 | ○ 一人一人に応じた練習問題の指導 |
| ○ つまずきに対処する例示問題の指導 | |

(2) 本年度の取組

本年度は、昨年度までの研究の成果を継承しつつ、「KIJINOレインボープラン」と関連させ、課題となった表現力・コミュニケーション能力の育成を図りながら学力向上への取組を実践することにした。そこで、研究主題を「胸をはって『私を見てください』と言える児童の育成」とし、副題を「話す力を高めることを通して」と定めて研究を進めている。また、学力向上に向けた「知」「徳」「体」の到達目標による取組とも連携させながら推進を図っている。研究内容は以下の通りである。

【 KIJINOレインボープランと主題研との関連 】

努力事項	実践内容	手立て
学力の向上に努めます	○ 基礎学力の向上	① 主題研究を進め、指導と評価の一体化を通して分かる授業を行います。 ② 主題研究を進め、基礎学力向上のための指導を行います。 ③ 学力テスト等で個別の分析を行い、指導に生かします。
	① 国語科・算数科指導と読書指導に努めます。	
	② 内容の確かな習得を目指して取り組みます。	
	③ 過疎力を生かした教育に取り組みます。	
	④ コミュニケーション能力の育成……言語活動の充実と表現力の育成に取り組みます。	



レインボープランの実践内容を更に細分化し、具体的手立てとして共通理解の元に取り組む。

- | | |
|-------------------|----------------|
| ○ 実態調査 | ○ 学習指導法の工夫 |
| ○ 言語活動の充実と言語環境の整備 | ○ 書く活動・表現活動の充実 |

① 実態調査

意識調査や授業記録による実態分析、CRT（国語）テストによる実態分析（平成16年度及び平成17年度、学力検査結果の分析）

② 学習指導法の工夫

「話すこと・聞くこと」の基礎・基本の具体化（各系統表作成）、学習の進め方の基本形（1単位時間における指導過程）、朝のチャレンジタイムの充実、評価の在り方、仮説検証授業を通じた取組など、これまでの仮説検証授業の実践結果を経て、特に表現力を育成し学力向上を図る上での重要な内容として次の様な内容を共通理解している。

- ア 上手な話し方（順序よく説明するポイントや分かりやすく発表するポイント）を意識させた掲示資料の活用。
- イ 相互評価や自己評価, 単元全体を通した個人評価用紙の導入による指導と評価の一体化。
- ウ より分かりやすい発表を行うための台本等の作成及び説明の仕方の工夫。

③ 言語活動の充実と言語環境の整備

- ア 掲示物の整備
 - ・話形表の作成
 - ・国語に関するコーナーの設置
- イ 常時指導
 - ・朝の会, 帰りの会での活動の充実
 - ・発表の仕方の指導



④ 書く活動, 表現活動の充実

- ア 日記・作文の添削指導（作文の手引き作成）
- イ 作文作品紹介（参考作品コーナー）
- ウ スピーチなど表現の場の設定

(ア) 全校集会で作文や音読教材を中心に自信をもつて発表する場の設定。 【全児童・全職員の俳句コーナー】

(イ) スピーチ集会で自分の考えをまとめ自信をもって, 大きな声で分かりやすく話せる力を育成すると共に, 発表内容について, 児童が質問や感想を述べることで生きた表現力を育成する場の設定。

(ウ) 校内放送を活用し, 自分や友達の作文発表を聞く活動を通して, いろいろな文章に親しむと共に, 正しい発音や音読の仕方にもふれる場の設定。

5 保護者・家庭, 地域との連携

学力の低下は躰の低下とも言われている現状を考えると, 保護者・家庭・地域との連携は非常に重要な意味をもっている。家庭での指導・活動と「学びの基礎力」の関係をまとめた, ある調査では, 家庭内コミュニケーションがとれているほど「学びの基礎力」が高いという結果が出ている。そこで本校では, 家庭学習の充実のために, 『家庭学習の手引き』を活用し, 保護者の啓発を図っている。また, ノーテレビデーや読書週間の取組を通して, 保護者と児童が一緒に時間を過ごすように呼びかけている。また, 学校行事や地域の各行事に地域の方や児童が積極的に参加するように教職員もサポートし, 地域社会との連携・融合を図るように努めている。

6 成果と課題（次年度の取組を含む）

(1) 成果

- 児童の学習に対する意識が少しずつ向上し, 学習内容の確実な定着が図れつつある。
- 自己評価・相互評価によって, 児童はお互いに切磋琢磨し学習意欲を高めてきている。
- 様々な表現の場を与えたことで, 少しずつ自信をもって意見を言えるようになってきた。

(2) 課題

- 研修を充実させ, 更に学力向上につながる表現力とコミュニケーション能力の育成を図る。
- 小中連携と「知」・「徳」・「体」の到達目標による取組の更なる充実を図る。
- 家庭内コミュニケーションの啓発と学社融合での取組の更なる充実を図る。